

たまごのカラで遊ぼう 1

神奈川県畜産技術センター

<準備編>

2009. 8月作成

用意する物 生たまご

包丁（くだものナイフや切れない包丁でも十分）、つまようじ

まがるストロー

たまごの中身をうけるボウルやおわんなど

①たまごのカラに傷をつけて穴を開けます。

・包丁の刃元（写真）の部分を使ってカラをコツコツたたいて、ストローが入るくらいの穴（直径1cm弱で十分）になるよう、カラを割ります。

・たまごのとがった方でなく「丸いほう」に開けたほうがカンタンなので、初心者にはオススメ。



※次のページの作品では作るものによって穴をあける位置が違います。作りたいものを考えてからカラの準備をしましょう。特に横側に穴をあけるときは、ヒビが入りやすいので注意してがんばりましょう。

【豆知識】ひよこがカラを割って出てくるとき、横側に穴を開けることが多いです。横側が割れやすいのがわかっているんだね！

②割ったカラをなるべくきれいに取り除きます。（つまようじなどを使っても）

③ストローをまげて短いほうを差し込みます。（黄身にささらない方があとで洗いやすいので、カラに沿わせるようにして黄身をよけて差し込みます）

④ボウルなどの上で、穴を下に向け、ストローから一気に息をふき込むと、ストローとカラのすきまから中身が出てきます。空気力で中身を押し出すのです。

（たまごの中身は、料理やお菓子作りなどに使っておいしく食べてね！）

⑤カラの中に水を半分くらい入れ、穴を指で押さえてよく振ります。中の水は出にくいので④同様にストローで息をふき込んですてます。3～4回洗います。

⑥外側の水気をふき、中の水が切れるよう、穴を下にしてしばらくおいておきます。

⑦穴を上に向けて3～4日、中をよ～く乾燥させます。

※よく洗ってよく乾燥しないと、あとでせっかくの作品にカビが生えちゃうよ！

※失敗しても気にせず、どんどん作ろう！ そして、たまごをたくさん食べてね！

たまごのカラで遊ぼう 2-1

神奈川県畜産技術センター

<制作編：ピクニックバスケット>

基本の用意

よく乾燥したたまごのカラ

アクリル絵の具（各色）

筆・水入れ・パレットなど

（パレットはお皿＋ラップで十分。このほうが洗わず捨てられるので便利！）

はさみ、カッター、木工用ボンド

※まわりを汚さないように新聞紙などの上で作りましょう。

※アクリル絵の具は乾くと筆が固まってしまいます。使わないときは水に入れておきましょう。

※カッターを使うときは手を切らないように十分気をつけてください。



【おにぎり】これが一番カンタン！

ここでの用意：丸い方に穴があいたたまごのカラ、黒のアクリル絵の具、紙

①紙を約3×9センチの長方形に切り、黒のアクリル絵の具で片面ずつ表裏ともぬる。

（黒い和紙や折り紙があればカンタン！）

②紙裏側の中心にボンドを線状に伸ばし、カラの穴を隠すように貼り付ける。



ボンド

※茶色いたまごで作れば「茶めしおにぎり」に！

【ラグビーボールスイカ】

ここでの用意：丸い方に穴があいたたまごのカラ、

緑のアクリル絵の具、油性黒マジック

（写真はアロウカナの卵で作ったので、緑色にはぬっていません）

①紙を直径2cm（穴より大きければOK）くらいの円形に切り、ふちに5mmくらいの切り込みをたくさん入れる。

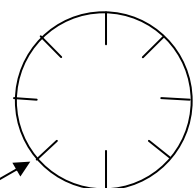
まん丸じゃなくてOK。

②紙の縁に木工用ボンドをつけ、カラの穴をふさぐようにはりつける。

③緑色のアクリル絵の具（少し白をまぜても）で全体をぬる。

④③が乾いたら、しまもようをつける

（黒マジックが簡単ですが、黒アクリル絵の具でも）



切り込み

たまごのカラーで遊ぼう 2-2

神奈川県畜産技術センター

【マスクメロン】

ここでの用意：丸い方に穴があいたたまごのカラー、緑・白のアクリル絵の具、つまようじ

①つまようじを約1cmと5mmの2本切り出し、長い方のまん中に短い方をボンドでつけ（Tの字）、乾かしておく。

（写真は紙粘土で作っています。お好きな方法でどうぞ）

②紙を直径2cm（穴より大きければOK）くらいの円に切り、ふちに切り込みをたくさん入れる。（スイカとおなじ）

③紙のふちに木工用ボンドをつけ、カラーの穴をふさぐようはる。

④①をカラーのとがった方にボンドではりつけてつる部分をつくり、乾かしておく。

⑤緑と白のアクリル絵の具でメロン色を作り、つるも含めて全体をぬる。

（写真はアロウカナの卵で作ったので、つる部分しかぬっていません）

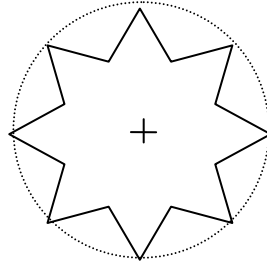
⑥かわいたら白のアクリル絵の具でアミ目もようをかく。



【いちご】

ここでの用意：丸い方に穴があいたたまごのカラー、緑・赤・白・黒のアクリル絵の具、つまようじ

①イチゴのへた：紙を直径3～4センチの円形に切り、縁をギザギザに切り込む。



②円の中心にカッターなどで小さな穴をあけ、1cmほどに切ったつまようじを半分ほど差し込む。裏になる方に木工用ボンドをつけ、抜けないように乾かしておく。

③カラーに赤（少し白をまぜても）のアクリル絵の具で色をつける（へたをつける方にむけて筆を動かし、白い部分を残しておく）と本物っぽい。写真）

④赤に黒をまぜたり白をまぜたりして種の色を作り、種をかく。（つまようじの先を使ってかいてもよい）

⑤②のボンドが乾いたら、緑のアクリル絵の具で片面ずつ表裏ともぬる。表側のつまようじもぬる。乾いたらギザギザ部分を少し外側にはねるようにクセをつけておくと本物っぽい。

⑥カラーの穴のまわりにボンドをぬり、へたをはりつける。

※へたの切込みを深くして、赤一色で作れば「プチトマト」になるかも！

そのときはカラーの穴をなるべく小さくしておこう！

たまごのカラーで遊ぼう 2-3

神奈川県畜産技術センター

【アメリカンドッグ】

ここでの用意：とがった方に穴をあけたたまごのカラー（茶色いたまごだとカンタン）、カッター、紙粘土、割り箸（丸いほうが本物っぽい）、赤・黄・茶色・白のアクリル絵の具



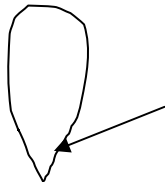
- ①箸をカッターで、約10cm切り取る。
- ②①の先端にボンドをつけ、カラーの先まで差し、カラーの穴の周辺と箸の根元にボンドをつけ、紙粘土でふさぐ。
- ③白いたまごの場合は全体を、茶色のたまごの場合は紙粘土部分のみ茶色にぬる。
- ④紙粘土を細長く伸ばし、ケチャップ部分とマスタード部分をボンドでカラーに貼り付け、乾いたら赤と黄色のアクリル絵の具でケチャップ色・マスタード色をつける。
（写真参照。紙粘土を細くのばすのはむずかしいので、無理ならたこ糸や布ひもなどに色をつけ、ボンドで貼り付ける）

【エビフライ】

ここでの用意：とがった方に穴をあけたたまごのカラー（うす茶色のたまごだとカンタン）赤・黄色（またはオレンジ）・茶色・白のアクリル絵の具



- ①厚めの紙を切ってエビのしっぽを作る。



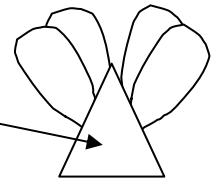
写真のものは
こんな形を4枚作成（紙は4枚重ねて一度に切るとカンタン）

- ②カラーの穴のまわりにボンドをつけ、紙粘土を直径1.5cm程度に丸めてから涙型に少しとがらせ、穴をふさぐようにつけます。しっぽの土台になります。

- ③①の細いほうにボンドをつけ、②の紙粘土に4枚ともさします。

右図参照。

紙粘土で作った土台



- ④赤と黄色（又はオレンジ）のアクリル絵の具でエビのしっぽの色を作り、紙粘土ごとしっぽ全体をぬります。

（白いカラーで作る場合は、先に茶色・黄色・白などでおもしろい「エビフライ色」を作り、カラーをぬってから始めよう）

**本物のネタと一緒にバスケットにつめて、お友達をおどろかせちゃおう！
いろいろ工夫して、オリジナルの新しいメニューを作ってね！**